

第 17 回 健康づくり推進協議会の概要報告

開催日	令和 3 年 12 月 16 日（木）14：00～16：00
開催場所	オンライン形式（Zoom）による開催 事務局：前橋センタービル 16 階 A 会議室
出席委員	小野寺委員、里見委員、吉田委員、吉川委員、内藤委員、佐藤委員（議長）、佐藤委員、神山委員、岡田委員（委員名簿順）
事務局	支部長、企画総務部長、企画総務グループ長、保健グループ長、保健グループ主任、保健スタッフ、保健師
議事	（1）データヘルス計画にかかる令和 3 年度保健事業実施状況および令和 4 年度実施事業について （2）被扶養者の特定健診受診率向上対策について
議事概要 （主な意見等）	・支部長挨拶 ■議事 【議題 1】 データヘルス計画にかかる令和 3 年度保健事業実施状況および令和 4 年度実施事業について 資料に基づいて事務局より説明を行った。主な質問・意見は以下のとおり。 【質問・意見】 （議長） コロナ禍によって受診勧奨や、保健指導の実施で苦労している様子が伺える。健診の受診勧奨に関して、中規模以上の 1,200 社を対象としているが、介入しにくい小規模の事業所等にも働きかけをしてみるのはいかがでしょうか。 （事務局） 今年度、小規模事業所 4300 社へ新たに受診案内を送付しているが、中規模および小規模事業所への勧奨結果を効果検証したうえで、来年度の勧奨対象を変更するか、継続するかを検討していきたい。 （被保険者代表） 健診実施機関が実施する特定保健指導を健診日当日、希望しないと回答した場合、健診実施機関から健診結果データが協会けんぽに送られた後についても保健指導の対象から外れてしまうのか。 （事務局） 健診日当日に特定保健指導を希望しないと回答した場合であっても、健診実施機関から

健診結果データが届いた後、協会けんぽが改めて対象者の選定を行い、特定保健指導の案内通知が事業所等に送付される仕組みになっている。

（被保険者代表）

協会けんぽから案内が送られるのであれば、特定保健指導の対象者が利用するチャンスも広がるため、改めて協会けんぽからプッシュするやり方は良いと思う。

（行政機関）

特定保健指導を希望するかしないかの選択を対象者に委ねるのではなく、特定保健指導を利用することを前提として、利用しない場合のみ申し出をするという方法にすれば、実施率が向上していくのでは。

（事務局）

特定保健指導実施機関との打ち合わせの際には、対象者に対して積極的に特定保健指導を促すよう依頼を行っており、また、協会けんぽが事業所等へ特定保健指導の案内通知を送付する際も、電話により事業所担当者に対して、保健指導を受けていただくようご案内している。

（保健医療関係者）

特定保健指導実施機関側として、アプローチの方法（対象者への話し方等）を工夫していきたい。

【議題 2】

被扶養者の特定健診受診率向上対策について

資料に基づいて事務局より説明を行った。主な質問・意見は以下のとおり。

【質問・意見】

（議長）

委員の各立場から意見や提案があればお願いしたい。

（被保険者代表）

質問は以下の 3 点

- ・ 特定健診の受診状況を把握できたが、がん検診の受診はどのような状況か。
- ・ 市町村別の受診率をみると比較的規模の小さな地域の市町村が受診しているようだが、近隣住民の間で情報共有がされ横のつながりが出来ているということだろうか。大都市部は、仕事で忙しい等という理由で受診しない人が多いのかもしれない。
- ・ 事業所を経由した特定健診の案内というのは、受診券を事業所へ送付するのではなく、案内チラシを配布するという解釈でよいか。以前は、事業所へ特定健診受診券を送付し、従業員に渡すやり方だったと記憶しているため、送付方法について改めて確認がしたい。

（事務局）

- ・ がん検診の受診率も低い状況であることから、効率的に受診率を向上させるため、市

町村のがん検診とあわせた勧奨を実施している。

- ・支部別市町村別比較表は、本部から提供されているデータのため、今後データ分析等を行い、受診傾向をつかむ等、生かしていきたい。

- ・以前は、協会けんぽから事業所へ受診券を送付するやり方をとっていたが、被扶養者に渡されていない事象や、従業員への配布が手間であるとの声が多く、被保険者の自宅へ直送する方法に変更した経緯がある。

(議長)

事業所を経由した特定健診の案内チラシについてインパクトはどうか。

(被保険者代表)

特定健診受診対象者数名に聞き取りを行ったところ、夫婦共働きのため、パート先の会社で受診している、また、病院に行くこと自体が嫌で行きたくない、健診結果で悪い結果が出たら落ち込むので億劫である等の意見があった。

(議長)

特定健診を受診することのメリット等、プラスの情報を受診案内に入れてみてはどうか。

(被保険者代表)

事業所を経由した特定健診の案内チラシの配布については、R1 年度、R2 年度と実施しており、給料明細に同封して配布を行った。事業所カルテで振り返ると、4.4%受診率が上がっているため、アプローチの方法としては良いと思う。ただし、「生活習慣病予防健診」「特定健診」「特定保健指導」「事業者健診」等、名称と内容が分かりづらく、把握が難しいため、広報をする際に工夫の必要があるのでは。

(事務局)

特定健診は H20 年度から開始され、制度が複雑化しているため、加入者が分かりやすい内容にしたうえで周知をしていきたい。

(事業主代表)

年 2 回の健診は例年行っているが、健診結果はプライベートな内容を含んでおり、事業所は情報がつかみにくく、従業員への介入が難しい。健診結果が出たら、主治医に持参し、連携するやり方が効果的ではないか。産業医はいるが、自身の病気の相談がしづらいため、身近な立場で相談できる環境が必要だと思う。参考になる話があれば伺いたい。

(保健医療関係者)

産業医の立場としては、主治医がいる場合は、主治医への受診を促すようにしている。しかし、治療内容等によって対応方法は異なるため、難しい問題だと思う。被扶養者の健診については、かかりつけ医で受診しているケースが多いように感じる。市町村国保や後期高齢医療保険加入だと、特定健診の自己負担がなく、オプション検査で腎機能検査が無料でできる市町村があるため、協会けんぽの特定健診についても自己負担額が 0

円であれば受診率向上が見込めるのでは。

（事務局）

特定健診の実施機関は、A 契約（人間ドック学会等の全国規模の団体）、B 契約（県医師会等）、2 種類の契約形態に分かれるが、受診者数の 7 割以上が B 契約の実施機関で受診をしており、近くの開業医等で受診するケースが多い傾向にある。

例年、年度末に実施する協会主催の集団健診については、自己負担なしで受診可能であるため、周知を徹底していきたい。

（保健医療関係者）

コロナ感染のリスクから受診控えが進んでいるが、特定健診を受け入れている立場から言うと、医療機関は感染対策を徹底して行っているため、是非安心して受診しに来てほしいと思う。

（保健医療関係者）

医療機関側としては、健診受診後の特定保健指導に積極的に関与し、また、受診していただくための啓蒙活動に力を入れて健診および特定保健指導の必要性をアピールしていきたい。啓蒙活動については、専門家（医師、看護師、保健師、管理栄養士等）が多くいるため、協会けんぽに協力することも可能なので、必要があれば是非声をかけてほしい。

（学識経験者）

個人情報や、多様性、人権の問題があるなかで受診率を向上させるのは容易いことではないと感じている。行政の立場にいたるが、医療者自身が一次予防を大切にする意識が低かったのではないのか。啓発活動も大事だが、医療環境全体で、もっと一次予防に力を入れていく必要があると思う。健診に行ったらお金を払うのではなく、反対にお金ももらえる位の環境にしていかなないと受診率は向上していかないのではないのか。自分の身の回りの意見を聞くと、「病院に行くことが嫌だ」、「予約手続きが面倒である」という声が多い。健診に行くことに対するインセンティブを付与していくのも手ではないか。

（行政機関）

健診未受診または未確認が 76.5%いるとのことだが、職場等で受診する等、特定健診以外を利用して受診する人が一定数いるのかも知れないと思った。

イオンモールで開催した乳がん検診は、ほぼ満員状態であった。これまでと違うやり方で実施する事業だと新たな反応があるのかもしれない。当日に乳がん検診用の検診車を 2 台用意し、1 台は検診車の中を見学出来るよう開放した。検診を受けることの恐怖といっても様々な段階があると考えられるため、まずは現場を見ていただき、内容を理解したうえで検診に行くことにより、検診に行くことに対するハードルを下げられるのでは。

また、インセンティブについては、ウォーキングアプリ「G・WALK+」を活用すると、溜まったポイントで抽選会に参加出来る仕組みになっている。特定健診を受診すると

500 ポイント、がん検診 200 ポイント付与されるため、是非使ってほしい。

（行政機関）

当市では、今年度 AI を活用した受診勧奨通知を発送した。これまでより照会が多くきているため、手ごたえを感じている。他の自治体で実施した際、受診率が向上したとの実績が出ているため、ある程度の効果は期待できると思う。通知内容としては、受診対象者のこれまでの健診および医療機関の受診状況を掲載している。年度末に事業の効果が出るため、効果検証をしていきたい。また、当市の中でも医療機関が充実している地域とそうでない地域に分かれるため、受診環境の整備も整えていきたいと思う。

（事務局）

AI を活用した受診勧奨通知の効果について、今後是非教えてほしい。また、受診環境の整備については、特定健診実施機関は県内全域にあるが、受診機会を広げるためにも集団健診の会場数を増やす等、今後さらに力を入れていきたいと考えている。

（議長）

未受診者の実態調査をして、なぜ受診をしていないのか理由を確かめるためにも、データ分析が大切であると思う。

（被保険者代表）

自身の身の回りで、がんにより亡くなる方が多いのだが、がん検診についてはどのような状況なのか。

（保健医療関係者）

がん検診の前年度受診率は約 6 割であった。毎年受診する方は少ないように感じる。年代によって傾向は異なるが、ここ数年、胃がんはかなり少なくなっている。一方で、肺がん、大腸がん、女性特有のがんは増加傾向にある。特に 40～50 代の男性は、未受診者が多く、また健診結果が出ても放置してしまう方も多いのではないかと推測する。

（議長）

特定健診や保健指導に限らず、働いている方々の健康をどう守っていくかは重要な課題である。

■群馬県より説明

- ・群馬県の食塩摂取量の推移（20 歳以上）について説明。

■事務局より連絡事項

- ・次回開催については、後日案内予定。

以上、説明し終了とした。

特記事項

- ・特になし